



「地域防災トーク」

地域の防災活動のヒントや
仲間を見つけよう！

10月25日（土）、金沢市で地域防災に関わる18団体35名の方が参加し、トークイベントを開催しました。「災害時のトイレ事情って?」「高齢者の避難はどうする?」。リアルな意見を交換することで、防災力を高めるヒントが見えてきます！

パネルディスカッション 地域の防災活動のヒント

パネリスト

金沢市菊川町公民館
地域団体



金沢市菊川町公民館主事
原 恵子氏

地震への備えや地震発生時の対応を学べる防災すごろくの作成やインクルーシブ防災の啓蒙など継続的な防災活動を行う。

西校下自主防災会
地域団体



西校下のコミュニティ防災士
西山 潤氏 雄谷 栄子氏

住民参加型の避難所開設訓練や能登半島地震の経験を生かしたリーフレットの全戸配布など住民の意見を取り入れた防災活動を実践している。

金沢大学ボランティア
さっぽーとステーション
学生団体



金沢大学人間社会研究域
経済学経営学系 講師
原田 魁成氏

災害復旧支援に加え、被災者の心の支援を他団体と連携して実施。能登の魅力を発信する活動の他、子どもの防災イベントを主催。

金沢工業大学
防災・減災プロジェクトSoRA
学生団体



藤井 信吾氏 沢田 直飛氏

地域住民と学生の防災意識向上を目指し、情報発信やボランティア活動、避難訓練に参加。今年度は学生の地域コミュニティ連携促進事業で、親子防災講座を実施。

THEME-01

「住民参加型」「地域×学生」、“自分ごと”の意識を高める

各団体の特徴と活動内容を教えてください。

(原氏) 菊川町公民館では令和4年から独自の防災すごろくを作成しています。住民がアイデアを出し合ってすごろくを作ることで、「支え合う意識」が生まれ、それが地域に役立っていることを実感できる。そんな関係性って防災にとって力になるんです。課題は高齢者など弱者への防災支援を強化すること。これからインクルーシブ防災に取り組みます。

(原田氏) 能登半島地震発生以降、金沢大学ボランティアさっぽーとステーションは他大学や企業と合同ボランティアを行っています。傾聴ボランティアや被災者の交流創出など心の支援も行ってきました。これからは現地で聞いたリアルな声を生かして、より現実的な防災訓練をしたいですし、長いスパンでの被災地支援を考え、なりわい創出になるような情報を発信し続けたいです。

(西山氏) 能登半島地震の際、西校下でも避難所を開設したのですが、日ごろの訓練の成果が出て、大きな混乱はありませんでした。ただ、その時に見えた課題が住民の避難に対する知識不足です。手ぶらで避難所にくる方もいて。そこで防災リーフレットを全戸配布し、「避難所について」「在宅避難について」の心構えを周知しました。今後は住民主体の避難所開設訓練や在宅避難訓練を実施したいです。

(藤井氏) 金沢工業大学防災・減災プロジェクトSoRAでは学生が地域、行政と協力し合い、地域の防災力を高める活動を行っています。具体的には子ども向けの防災教室や、地域住民が行う防災訓練に団体として参加、協力させていただいたり、地域住民との夜回り、新入生への非常食販売など。学生が得た防災知識を地域へ還元し、地域住民と学生が顔見知りになることが防災力強化につながっています。

THEME 02

地域と絆を深める、 それぞれの強みをつなげよう

各団体の活動について、どう思いましたか？

(原田氏) 菊川町公民館の注目点は住民が交流するきっかけづくりをしているところ。住民に共助の心構えがある避難所って、運営がしやすいんです。住民の交流が共助の意識を醸成していますよね。

(原氏) 金沢大学ボランティアさっぽーとステーションは、現地の声を届けてくれるところが強み。先日、高齢者と能登で研修旅行をしたのですが、現地を見ることで、意識が変わっていましたから。

(西山氏) SoRAは学生たちの行動力がすごいですね。大学が避難所指定を受けていることを活用して、地域の方と絆を深めて防災意識が高められるのは強みだと感じました。

(藤井氏) 西校下自主防災会の情報発信力が参考になりました。実際にリーフレットを作って全戸へ配布する、避難所に持参する持ち物リストを知らせることは防災力を確実に上げてくれると思います。

THEME 03

年齢や言葉、文化の壁を 越えての防災教育

高齢者や外国人旅行者への防災対策にご意見をお願いします。

(原氏) 菊川町公民館ではインクルーシブ防災に取り組んでお

地域の防災活動相談会



それが課題解決のヒントを持ち帰りました。あちらこちらで名刺交換を行う様子が見られ、各団体や個人がつながり、補完し合いながら防災力を高めていく可能性が見えたことも有意義です。

相談会で出された課題や解決策は、金沢市が運営するプラットフォーム「地域課題解決マッチングボックス マッチ箱」に共有でき、ディスカッションが継続できます。

り、啓発資料と防災紙芝居の作成をしています。まだ途中ですが、障がいがある方、高齢者、お子さんでもすぐにわかる紙芝居を作る予定です。

(雄谷氏) 私たちは高齢者講座を開催していて、「水がない状況でのトイレ問題」についてレクチャーしたり、「明日、震度7の地震が来る」という想定でディスカッションしたり。意識が変わりますよ。

(原田氏) 私が提案するのは外国人防災士の育成と、外国人防災士による防災教育の実施です。他の文化を理解した外国人による、外国人のための防災教育ができればいいですね。

(沢田氏) 英語版のハザードマップがあるので、避難所のマークを覚えるだけでも効果がありそう。「机の下に隠れる」といった行動をジェスチャーで伝える防災教室なら言葉の壁があってもできそうです。



地域の防災のために何ができるのか、真剣に聴き入る参加者

ディスカッションを傍聴した参加者は6グループに分かれ、防災に関する課題を相談し合いました。パネリストも交じての意見交換会は白熱し、コーディネーターのストップの合図がかき消されるほど。防災への熱量が伝わってきました。例えば、「防災意識に差がある」「若い人に参加してほしい」「災害時に役立つ防災BOXを提案したいが地域への入り込み方がわからない」「集合住宅が多い地域でのコミュニティづくりが難しい」「地域に暮らす外国人に対する防災が難しい」といった悩みに対し、「地域のイベントと防災イベントと一緒に使う」「学生×地域連携プラットフォームを活用する」「防災BOXを地域の交流館でアピールする」「マンションなどさまざまな団体に対して説明会を行う」「二次元コードを利用する、日頃から外国人の文化を理解する関係づくりをする」といった解決策が提案されました。高齢者から学生まで幅広い年齢層の参加者が集い、普段は思いつかない意見を聞くことで、それ